

第2回勝山市立中学校再編準備委員会 議事録

(1) 日 時：令和8年7月23日（木）午後7時より（ジオアリーナ 研修室）

(2) 参加者：準備委員20名（2名欠席）、事務局9名、報道1名、傍聴1名

(3) 内 容

1. 教育長あいさつ
2. 委員長あいさつ
3. 各部会の進捗について
 - ①総務部会
 - ②学校運営部会
 - ③PTA部会
 - ④施設整備部会
4. その他

《教育長あいさつ》

・カット

《委員長あいさつ》

・カット

《各部会の進捗について》

①総務部会について

委員長 ・それでは、皆様の手元にあるレジュメに従って、議事を進行させていただきたいと思う。まず、冒頭にも話したように、各部会からの報告協議事項ということで、各部会の方より事務局にて説明をお願いしたい。それでは最初に、総務部会の方より報告をお願いしたい。

事務局 ・総務部会の報告をさせていただく。冒頭、話があったように、本日の議題については、ほとんどが報告事項ではあるが、この総務部会の校旗と校訓について説明させていただいたあと、皆様に了解をいただければと思っているので、よろしくお願いしたい。1 ページ目の資料をご覧いただきたい。この校旗の案だが、校章そのものについては、昨年度までに様々な経緯を経て、この校章に決まっていたわけだが、これを校旗にする場合の背景色や、デザインをどのようにしていくかということを議論をした。最終的に様々な意見の中から、このハイライトブルー、まさに本当の青色だが、これを下地にして、金糸でこの校章を、デザインしていくというふうに、総務部会で決定いただいた。なお、この議論の折に、この校章の中の花びら

にあたる部分は以前に説明させていただいたかと思うが、サツキの花で、この勝山のサツキの花の花びらの部分を、下地のままにしまうと、金色の部分は刺繍されているが、中が抜けていることがいかにかという意見をいただいた。少し見にくいですが、同じ色で、この花びらの部分を刺繍し、一つのデザインを遜色なく作っていくことで制作が可能であることを聞いている。なお、下の勝山市立勝山中学校については、楷書体の文字を使って、校章と同じような色で、刺繍をしていく。こういう形で、校旗を作ってはという提案になる。なお、参考までに、この校旗については、同窓会の方で、制作費用を寄付いただくと聞いている。そういった形で今日承認いただければ、制作にかかっていきたいと考えている。説明は以上である。

委員長 ・校旗についての説明だったが、校旗というと、学校の旗印ということで非常に重要なものなので、いろいろ質問等があったら、お願いできればと思う。総務部会の方で審議をしていたので、総務部会にはほとんどPTAの会長さんたちの方がメンバーでないので、今日初めて見られる方もおられるかと思うが、何か意見や、質問等があったら、ぜひお願いできればと思う。いかがか。

委員 1 ・言われたように、確かに部会には参加はしていないので、今見させていただいたら、すごいなと思っている。これについて何かと言われても、すでに進めていただいている話になると思うので、今はこうしてほしいとかというより、いいなと思っている。

委員 2 ・会議の方に参加してないので、どういう経緯というのはわからないが、大変素晴らしいものが出来上がっているのではないかという感想になる。

委員 3 ・私も同じくいいデザインだと思う。ぜひこの形で進めていただければ。

委員長 ・他にどなたか。何か逆に異論等があったら。

委員 4 ・異論があっても正直、多分難しい。

委員長 ・よろしいか。これは実際に総務部会の方でいろいろ審議させていただいており、事務局の方で最終案という形で、今日提案いただいている内容になる。そういうことで、これで皆さんの了解がいただければ、この校旗で、この後進めてもらいたいと思う。これはもう賛否というよりいいかどうかの審議だけなので、校旗については、今日提案いただいた本体色、ハイライトブルーに基づく校旗を今後採用するという方向で進めていただければと思うので、よろしく願いしたい。

事務局 ・ありがとうございます。それでは続いて、校歌の方に移らせていただく。校歌については、現在制作を進めていただいている、これまで何度か説明させていただいたかと思うが、作詞の方については、平泉寺町に在住の大場桂さん、平泉和美さんという方をお願いをしている。それから、作曲の方については、姫神さん、星吉紀さんという本名の方をお願いをして、作成をしていただいているところである。この件に関しては、いろいろな人

の意見もお聞きして、慎重に進めよという意見をいただいているが、これについては、現在まだ皆様方に公表できる状況でないので、報告のみとさせていただきますたい。

委員長 ・第1回目のときに、一部説明はさせていただいたかと思う。今日は資料はついていないが、事務局の方からの報告のとおり、作詞作曲は順調に進んでいるということなので、これについては、あくまで今の状況報告ということでの報告にとどめさせていただければなと思うので、よろしくお願いしたい。それでは続いて、校訓についてお願いする

事務局 ・資料1-2をご覧ください。2ページになる。校訓について、これまでの総務部会で2度にわたって協議をいただいたが、中学校が目指す4つの生徒像、下に4つ書いてあるが、この4つの生徒像を具現化する言葉として、校訓の案を以下のように提案させていただきたいと考えている。校訓の案は、立志、敬和、協創というものである。目指す生徒像との関連で、「立志」という言葉については、生徒像の1番と4番を具現化したものと考えていて、自分の将来をデザインし、その目標に向かって自信を持って粘り強く学び続けるという「個の自立と挑戦」を示すものと考えて、立志としている。「敬和」については、3番の言葉を具現化しているもので、お互いのよさを認め、心を通わせて共に関わり合う「人間関係の土台」を示すものとしている。3つ目の「協創」については、2番の多様な他者と協働し、主体的に考えながら新しい価値を創造していく「社会で必要な力」を示すものとしている。語の並び順として、先生が、子ども達にこの校訓を話すときに、次のように語るといいのではないかとということも考えてある。3つの成長のステップとして、まず自分自身の目標をしっかり持ちましょう、これが立志だよと。そのために仲間とお互いを尊敬・尊重し合いましょう、これが敬和だよと。そしてみんなで力を合わせて新しい未来を創り出そう、これを協創というんだよというような説明をするといいのではないかと考えている。委員会の中では、この順番1番、4番、3番、2番というような形で立志、敬和、協創としているので、生徒像も分かりやすくこの順に並べた方がいいのではないかと意見もいただいた。この点に関しては、ここの目指す像に込めた思いもあるので、今後検討していくということで回答させていただいている状況である。今日は、立志、敬和、協創ということでよろしいかどうか、了承をいただきたいので、よろしくお願いしたい。

委員長 ・校訓となると、非常にこれに対しての意見というのも難しいところもあるかと思う。実際の総務部会の時には、これ以外にもいろいろ校訓の案があったが、その中で最終的にこの案ということで、総務部会での結論が出ているわけだが、今説明いただいた内容について、何か聞きたいこととか、これに対しての意見というのは非常に難しいかと思うが、何かあったら受けたと思うがいかがか。参考に、北部中、南部中、中部中の今現在の校訓を披露していただけるか。

委員 1 ・中部中学校は、奮起、自主、協同が校訓になる。新中学校の中には一文字入っているので、全く一緒ではなくてよかったなと思う。

委員 2 ・北部中学校は、敬、愛、信になる。同じような思いが込められていると思う。

委員 3 ・南部中学校は、自立、敬愛、協力になる。

委員長 ・今、聞かれたように、各中学校の校訓が全部 3 つの文字から構成されているということで、総務部会の際は 4 つの文字というのもあったが、やはり校訓としては 3 つの文字で構成される方がいいだろうということで、今日提案いただいたこの立志、敬和、協創という形で、最終的な提案をいただいている。そういうことで、特に今の中部、南部、北部との兼ね合いという必要性はないが、今のを聞いて、質問とか出てきたら、お願いできればと思う。特にはないか。何かあればお願いできればと思う。

委員 4 ・前回、自分は出席して、やはり子ども達が生活するためには 3 つが一番いいのではないかとということで意見を述べさせていただいた。それと、3 つの中学校が一つになるので、3 つの中学校の一つでも同じようなものがあると、その学校の方に偏ってしまうので、一文字ぐらいはいいと思うが、なるべく新しくて、そして 3 つということで、この 3 つにさせていただいた。

委員長 ・コメントがあったように、そういったような意見等、総務部会の中でもいろいろ議論させていただいて、この案になったところである。これにつきましても、こういう文字がいいという案というのも非常に難しいものではないかと思うので、今、説明いただいたこの立志、敬和、協創を、今度の新中学校の校訓として採用させていただくということで、異議はないだろうか。それでは、この校訓で今後進めていきたいと思うので、よろしく願いしたい。

(頷き多数)

②学校運営部会について

委員長 ・それでは引き続いて、学校運営部会の方の説明に入らせていただきたいと思いますので、よろしくお願いします。

事務局 ・これについても、私の方から報告をさせていただく。学校運営部会については、全て報告事項なので、どのようなことを協議したのかということ報告させていただく。まず、これも冒頭、あったが、この委員会とは別に、先生方で構成している中高一貫教育推進協議会、その実務的な部会として、中高連携推進委員会の 6 つの部会がある。そこで協議された内容について、報告をさせていただく。まず一つ目の教育課程部会については、いわゆる教育計画であるが、令和 9 年度の行事ごとを鋭意作成中ということである。実は第 1 回議事録と書いてあるが、教育課程部会、進路支援部会、

探究部会については、すでに昨日の段階で2回目を終えている。ほぼ同じ内容を協議している。具体的な学校運営に関わる内容で、高校との調整がいよいよ中心的な課題に入ってきたというところで、上手に調整していく必要があるかと考えている。2つ目の生徒支援部会については、生徒会活動であるとか、生活のルール、あるいは通学であるとか、部活動。こういった内容について、細かな内容について調整をしているところである。すでに生徒会関係のことについては、今年度から子ども達の間でどのような生活ルールを作っていこうかということを各中学校で協議が始まっていると聞いている。3つ目の進路支援部会だが、中高一貫教育を行うので、連携生徒という形で勝山高校へ進学を希望する生徒さんについては、どのような形で勝山高校に接続していくのかということ、あるいはその生徒さんに対してどのようなプログラムを準備するかということについて協議をしている。もう一つは、商工会議所の方にも非常にお世話になって、今年度からライフデザイン教育ということで、ライフデザインリレー講座というものを始めている。これは早くから子ども達が将来どのように生きていくかということを意識してもらえるようにということで、地域の様々な企業の方々に学校の方へおいでいただき、仕事の魅力とか、その生き方について直接話を聞くということを1年、2年、3年ともに開始をしたところである。おかげさまで、大体どの中学校、どの学年も1回から2回の講座を終えて、今後、引き続き講座を続けていきたいと考えていて、こういった内容についても協議をしている。めくっていただいて、4ページ目は英語部会、数学部会だが、数学部会はまだ開催していなくて、今後開催の予定だが、数学、英語については、少人数で授業を行なっていくということを決めている。どのような形でクラスを組んでいくのかとか、もう一つは、そこに高校の先生方が入っていただいて、サポート授業ということで応援をしていただけるという方針も当初から決めているので、どのような形で入っていただき、どのような指導をしていくといいのかということを検討している。最後、探究部会については、6年間を見通して探究活動、特に勝山高校探究特進科、今後は探究科に発展していくと聞いているので、この中学校から高校にかけてどのようにつないでいくといいのかということを経験ストーリーという名前で、その計画を立てている。併せて、中学校の総合の時間をどのようにしていくのか、あるいはキャリア教育をどのようにしていくのかというあたりを合わせて、総合的な学習の時間のあり方などを検討している。中高連携推進委員会の説明については以上である。

- 事務局
- ・次に5ページ目をご覧ください。今年度末から来年度初めにかけて、閉校、開校といったことで、いくつかの大きな行事が動く。非常に忙しい時期になろうかと思うが、主なものについて決まっているので、その部分を確認をさせていただいたというものである。まず令和8年度末、今年度末の卒業式は、今のところ3月8日に予定をしている。3月8日が過ぎると、翌々日の10日から現在の中学校2年生の皆さんが修学旅行に行く。これも中で説明させていただいたが、例年だと3年生になってから修学旅

行に行くわけだが、修学旅行単発でその日だけを取ればいいというものではなくて、旅行までいろんな準備、研究等を重ねていくので、それを考えると、新しい中学校になって、非常にバタバタした状態で行くよりも、現状安定している状態で、研究等を重ねて、この日にやった方がいいということを学校とも相談させていただいて、この卒業式明けのすぐに修学旅行に行く決めさせていただいている。修了式は、例年だとこれも3月20日過ぎになるが、今年度は少し繰り上げて、3月18日に修了式を行うということで、この後の期間を開校の準備に当てたいと考えている。同時に、この部分の授業数が減るので、夏休みを早く終わらせて、少し短い夏休みという形で、この分に対応していきたいと考えている。校舎が3月半ばに完成予定なので、こういったものを披露させていただくような完成式、いわゆる落成式、竣工式といったようなものについては、3月下旬に予定をしている。なお、現在の3中学校の開校式については、3月30日を予定している。9年度に入って、入学式・開校式については、同日に開催をしたいと考えている。開校式からそのまま入学式につながっていくような形で式典が持てないかと考えていて、これを4月8日木曜日に計画をしている。なお、年度初めのPTA総会については、4月18日に計画をされているとPTAの皆様方から聞いているので、ここに記載させていただいた。年度終わり、年度初めの行事についての説明は以上である。

事務局 ・最後に、6ページ目、資料2-3をご覧ください。新中学校開校にあたり、例年小学校6年生の皆さんに説明会を実施していた。これまでは、小学校6年生の皆さんについては、ここで説明をして、実際に入るのは現在の3中学校ということだったが、今年度に関しては、小学校を卒業すると勝山中学校に直接入学される生徒さんになるので、これまで2段階に分けてやっていた説明会を一つにまとめて、1月の21日、ジオアリーナで説明会を行いたいと考えている。詳細はまだ案なので、ご覧をいただいて、勝山中学校の魅力を話すとともに、生活の約束等については細かく説明をさせていただきたいと考えている。あわせて、現在の中学校1、2年の生徒さんについても、新しい中学校に引っ越しすることになるので、この説明については、11月末から12月にかけて、3中学校を回って、中学生なので、中学校に対する不安というのではないと思うが、新しい中学校になって変わることについて、焦点を絞って説明をさせていただきたいと考えている。説明は以上である。

事務局 ・続いて、マイナンバーカードの中学校での活用について説明させていただく。この内容については、本日資料はないが、学校運営部会、PTA部会、施設整備部会の方で説明をさせていただいたので、ここでまとめて報告をさせていただきたいと思う。勝山市では、昨年10月より始まったマイナ救急の効果を上げるために、市民のマイナンバーカードの携帯を推進する取り組みを進めていこうとしている。そうしたところで、来年度開校する勝山中学校でも、生徒の安全を守るためにこうした取り組みができないかということで、マイナンバーカードを地下横断歩道の自動ドアを開けるセキュリティカードや図書の貸し出しカード、また出席確認等に日常的に利

用していただいて、携帯することができないかということで、提案をさせていただいた。ただ委員の方々からは、そうしたことは時期尚早ではないかという意見も多数いただいた。マイナ救急の効果を上げるということについては、いいことだと思うという意見もいただいているので、今後市P連等を通じて、保護者や先生方の意見を伺いながら、どのような活用や運用をしていくと良くなるかということも改めて検討させていただいて、こういった場で、部会等を通じて説明をさせていただきたいと思う。また、その際にはいろいろご意見をいただくこともあると思うので、ご協力をお願いしたい。以上になる。

委員長 ・学校運営部会の方からの説明、報告を終了した。まず一点目の中高連携推進委員会の方からの、各部会からの協議テーマに基づく報告事項だが、これについては、今後、中高連携がスムーズに進んでいくように、これについては先生方の方で、今後逐次進めていっていただくということで、次回の報告を待つという形で、報告のみという方向で終わらせたいと思う。何か質問があればだが、よろしいか。これについては、先生方の方で、いろいろ今後の新中学校の体制でも議論いただいているので、そちらで十分審議していただいた内容を聞くという形になろうかと思うので、よろしくお願いしたい。それでは次に、閉校、開校に係る諸行事についてということで、今ほどスケジュールの予定案が紹介されていたわけだが、特に学校の先生方の方から要望等はないということでもよろしいのか。大体このスケジュールの方向で進めるということでもわかった。P T Aの方々、どなたか質問等あったらどうか。これはあくまで案ということでも出ているので、これも変更の余地はあろうかと思うので、実際P T Aの会長さん方々の立場から、この日程ではという、もし何かあったら意見をいただければと思うが、いかがか。

委員 1 ・一応この予定を見させていただいて、3月に入ってから怒涛の嵐のようなスケジュールになっている。3月に入ってからだが、その前の段階でも多分、生徒さんは先ほどの校歌にしてもそうだし、案ということだが、この会を通じて、詳しい情報が入り次第というか、決定次第、随時教えていただきたいと思います。まして、学校の先生方もはじめ、P T Aの方、単Pの方も必要かなと。子どもさんとか保護者の方にも必要だろうなと。先ほど、言われたように、もうあとこれだけしか残ってないんだというような時期、1学期終わってしまい、開校に向けて近づいてきてるなあと。本当にバタバタするのは想定されるので、その点で配慮できる場所はお願いしたいと思っている。よろしくお願いしたい。

委員長 ・多分実際3月、年度末になってくると、これ以外に校歌の練習とかいろいろなものが、ここに付加されてくるのだと思う。そういった意味で、開校式、閉校式だけに限らずに、生徒さんたちの立場、親御さんの立場を考えたときには、全体的にはタイムスケジュール的なものがあると、親御さんの方も安心して、いつ頃までにこれやらせておけばいいんだなというところを、理解していただけるのではないかと思いますので、閉校式、開校式は

これでいいが、これと合わせて、他に発生する行事等も合わせた形で、タイムスケジュールを提示していただけると、非常に親御さんも助かるのではないと思う。そういったことも検討いただければなと思うので、願います。

事務局 ・情報については、なかなか簡単にこのようにしたとすぐ決められてオッケーというものでもないので、難しい部分もあるが、極力出せるものについては早く皆様方の手元に届くような形で、努力したいと思うので、よろしく願いたい。

委員長 ・よろしく願いたい。よろしいか。

委員 2 ・3 中学校の閉校式だが、確かこの 1 日で、中学校それぞれ時間を決めて、タイムスケジュールを決めてのことになる。午前からか午後からか、それとも午前から午後にかけてか。

事務局 ・三つもあるので、閉校式自体はそんなに時間がかかるものではないと思うので、詳細は今からだが、ざっくり言うと午前中に 2 つあって、午後に 1 つというような形になるのではないと思うが、詳細は検討中である。

委員 3 ・勝山中学校の完成式というのはそこまで頭の中になかったのだが、完成式は完成式で何か行われる予定か。

事務局 ・名前が竣工式だとか落成式だとか様々な名前があって厳密にいうと神事を伴う場合が何とかいろんな違いがあるようだが、基本的には校舎のお披露目会というもので、これは子ども達を呼んで何とかというのではなくていわゆる関係者の方々に校舎を内覧していただくような会ということである。

委員長 ・施設の方も関係があるが、何かあるか。開校式とか、完成式とかあるが、特に前から言われていた事前にお披露目についてのことで。

委員 4 ・この暑い中で作業されている職人さんの方もおられる。この建物に多く工事に関わられている人たちもいる。もしかしたら、生徒さんの親御さんたちも工事に関わられているかもしれないので、今からでも構わないので、現場確認とかに行く時に、動画を撮られて、こういうふうに作られていったんだというのが、少し開校式とかに出せるとか、後日、1 年目とか 2 年目とかにこういうふうに作られていったというのが見せられると、職人さんたちも嬉しいのかなと思った。動画の編集は得意なので、素材さえいただけたら編集したい。

委員長 ・よろしく願います。それでは今の 2 番目の閉校、開校に関する行事についてという点について、何か意見、質問、他にあったら願いたいですが、よろしいか。

委員長 ・一応これはあくまで案で、今後変更になる要素があるということを含み置きいただいて、今日この資料をお持ち帰りいただきたいと思うので、よろしく願います。これはあまり表に出てしまって、これが確定されると非

常に困るので、そこだけ十分取り扱いには注意いただきたいと思いますので、よろしくお願いしたい。それでは次に、令和9年度中学校入学生交流会について何か意見、質問等あったら受けたと思うが、特に小学校のPTA会長さんの方、何かないか。これは例年、各中学校で行っているのを、ここから一つの中学校で全部まとめて実施するということでの紹介という形になるので、この日はもうこれで確定ということではよろしいのか。

事務局 ・1月21日については、この日で、ジオアリーナでということで確定をさせていただきたいと思っている。

委員長 ・では、そういうことで、小学校のPTA会長の皆さん方には、一応この日程でということで、市P連の方も含めて、その連絡があれば、そういう形で回答いただければと思う。合わせて今現在の中学校1年生、2年生を対象にした説明会だが、これは11月末から12月ということで、日程はまだ未定ということだが、中学校のPTA会長さんの方で何か意見があったら、受けたと思うが、いかがか。よろしいか。市P連の方もよろしいか。特になければ、これについても、今回の場合は中学校1年生対象ということで、これまではなかったが、新たな中学校ということで、今の現中1年生、2年生にも説明するということなので、これについても、日程が決まり次第、連絡の方をよろしくお願いしたいと思う。

委員5 ・日を早く決定していただいた方が、詰まってきているので、いろんなことがバッティングするかもしれない。

委員長 ・事務局の方で、日程の調整は早めをお願いしたいと思う。

委員6 ・先ほどの話、開校に関わる諸行事について、もし聞くことができたと思うが、今完成した内覧式について教えていただいたが、新1年生の子と、現在の中学校1、2年生、新中学校に入る子たちは、新しい学校ができた時点で、開校式、入学式の前に見に行くことというのは可能なのか。子どもは一番多分、見たがるのではないかと思っている。

事務局 ・現時点で子ども達がどの段階で学校に入れるかということを協議しているわけではないので、明確な答えはできないが、ただ今聞くと、業者から引き渡しができるという状況になれば、見ることも可能であるというようなことも今聞いたので、そのあたりをどうしていくかについては、今後の課題とさせていただければと思う。

委員7 ・大きな話になるのかもしれないが、今、説明会の話があったので、多分説明会に行かれる子どもさんたち、保護者の方は、本当にいい学校ができているんだということで、1月に入ると、もう形も多分できていると思うので、そういう期待感というか。そういうことに少しでも答えてもらえると嬉しいかなと思ったので、質問させてもらった。

委員長 ・他に何か質問はあるか。では、一番最後に説明いただいたマイナンバーカード、これは各部会の方でもいろいろ意見は紛糾したというような話も聞いている。今、事務局からの説明では、これ必須ではないということで、

含めて、今後どういうふうな形で運用していくかというところを再度ということで、この前提案いただいたことがありきのような考え方ではなくてということでもよろしいのか。そういうのも含めて、どういう形で運営していくかというところをもう一度検討いただいて、各部会の方で報告いただくという形でよろしいのか。

委員 8 ・ マイナンバーカードの運用のことだが、この間、校長先生方の意見も聞くことができた。実情というか、保護者の方も、ここに保護者の方がいるわけではないので、市P連もそうだが、単Pの会長さんは、市P連でも会議を開くので、そういった場でも、少し意見の収集ではないが、どんなふうに思っているのか、私の隣にお母さんとしての立場の会長さんもいるが、いろいろと決定するとか、そういうのは別として、保護者の方の考えとか。真っ向から反対とかではなくて、それもいいという人もいるかもしれないので、なんとも言えないが、いろんな意見を市P連としては、聞かせていただけるといいのかなと思っている。

委員長 ・ その辺の都合については、今後でそういう情報を収集するような予定というのは何かあるのか、前の時は確か保護者会か何かのときに一回説明というような話もあったかと思うが、その辺のところを今後どういう形で進められていくのか。

事務局 ・ 決めているわけではないが、やはりそういった説明の前に保護者の方の意見を聞くのにアンケートとかでさせていただけないかと思っている。ホーム&スクール等を通じて実際こういったことを考えているが協力していただけるかどうかというところとやはりそれはちょっと無理ですよというところの意見というのは、こちらとしても知りたいところではあるので、そういったところで、学校の方にもお願いしながら、進めていけないかなと思っている。

委員長 ・ マイナンバーカードを作るとなると、少し時間がかかるので、アンケートなりをするのであれば、早めにしていただいた方がよろしいかと思うので、その辺のところを調整しながらお願いしたい。マイナンバーについて何か質問、意見。これだけはお願いしておきたいというようなことが、もしあったら、何かないか。

委員 9 ・ マイナンバーカードを使うと初めて聞いたが、なぜ使わないのかなと思っていた。マイナンバーカードを使わないということは、入退室はどうやってするのか。結局カードをまた別に作るのかと思った。結局そこでも多分氏名とか生年月日か何か知らないが、いろいろな個人情報も入ってくるだろうから、それだったらマイナンバーカードでいいのではないかというのは今素直に思った。

委員長 ・ **今**のような意見もあったかと思う。実際に各部会の方でも。ただそれ以外に、例えば保険証にもなるから、家で何かあったときに、やはり家に置いておきたいという意見もあったし、いろんな立場での、マイナンバーを持たせること自体に子どもなので抵抗があるとか。そういったような意見も

いろいろあった。だから、そういったようなところが、前回の各部会の方でも賛成論、反対論、いろいろ出てきて、現在ここに至っているということなので、そういったような意見を今回もう一度踏まえて、今後どうするかということで、対応を進めていただくという形になっている。各家庭によっていろいろ理由があるようなことを言われていたので、そのところをいろいろ与して、今後一概にマイナンバーカードでいくというのではなくて、マイナンバーカードを含めていろんな方法論を検討していこうということで、回答いただいているということですのでよろしいか。今日これ初めて聞かれた方はおられるか。マイナンバーカードの件、どうか。今のことを聞かれて何か。

委員 10 ・なくすだろうと思う。

委員長 ・賛成ではないということか。持たせたくない。

委員 11 ・銀行も紐づいて保険証も紐づいているものをなくす。

委員 12 ・なくすと、その金銭的なのが一般の人にとっては、入れることになる。だからそういう大事なカードはマイナンバーでいいかなと普通に思う。その方がなくさない。何もない代わりにマイナンバーカードは絶対離していない。ずっと持っている。なくしたら怖い。

委員 13 ・病気で早退した時に、病院に連れて行く時に家にあった方がいいというのはある。

委員長 ・そういう意見も、お母さん方からは結構あった。いろんな立場での意見があったので、そういったようなところを全部考慮していただいて、今後どうするかということを検討いただくという形になろうかと思う。そういう状況なので、よろしく願いしたい。マイナンバーカードについては以上でよろしいか。今後事務局の方で十分検討いただいて、またこういう場で報告いただくという形にしたいと思うので、よろしく願いしたい。

③ P T A 部会について

委員長 ・それでは、学校運営部会の方の報告は以上で終わらせていただいて、引き続いて、P T A 部会からの報告をお願いしたいと思う。

事務局 ・それではよろしく願いしたい。資料の 3-1 になる。スクールバスのことについて、説明させていただく。まず一番上の四角だが、これは基本的な考えとして、スクールバスを導入した経緯である。運用の仕方は朝一便、夕二便、そして対象となる利用者は、家からジオアリーナと書いてあるが、勝高の玄関までの人もいると思う。とにかく 1.5km ということを境目としている。現在のバス停を利用して、一般の方、それから高校生も乗車可能となっていて、運賃は無料である。次をめくっていただきたい。資料 3-2 になる。市内全域で、1 番から 12 番まであるが、12 のルートでスクールバスが動く。すべて真ん中にあるジオアリーナをめがけてやってくる。帰りはこのジオアリーナをスタートにして帰っていくということになる。

必ずこのジオアリーナ、それから福井勝山総合病院、そしてサンプラザ、勝山駅前という四か所を通るようになっている。実はここの鹿谷地区から、もう少しこの地区の中の方へ、路線を変えて入っていただけないかという陳情書が議会に出ていた。それで議会で審議していただいた結果、不採択になった。我々も区長会、全十地区回って、もう一つのフルデマンドバスと合わせて説明し、何とか理解を得て、この現路線でとりあえずさせていただけないかということになっている。当然、かしてみるといろいろ課題が出てくるので、それはまた次の年度に変えていくというようなことになるかと思われる。その次をめくっていただきたい。資料3-3になる。ここに時刻が書いてある。朝はジオアリーナに5分刻みで3本ずつ便がやってくる。勝山高校、それから勝山中学校の始業時刻に間に合うようにやってくる。できるだけ中学生がそんなに長い時間乗車しないようにということで、右を見ていただきますと、一番長いところでも30分以内の乗車時間で着くようになっている。そして帰りは二便ある。一便目は16時40分からまた5分おきに出て行く。これは部活動がない生徒が乗ることになっている。勝高生は乗れないのではないかとということだが、勝山高校は7限目まであって、7限目終了が16時30分ということで、もし部活をしないという生徒さんがいれば、乗ることができるということになる。次は二便目が17時50分スタートになっている。これは部活のある生徒への対応になっている。これは部活のある生徒さんがいれば、乗ることができるということで、高校生は午後7時まで部活をしているので、今の形と同じになってしまう。申し訳ないが、工夫して帰ってくださいということになっている。次をめくっていただきたい。資料3-4になる。中学生が乗るバス停からずっと書いてあるが、赤字の部分がある。これは今年度の生徒の転出入を見て、人数が変化になったところである。だから最終右へ行くと、ほとんどのところで赤が入っているが、人数が多少増減している。一番下に、314と書いてあるが、実は去年は306人だった。つまり8人ほど増えている勘定になる。それから次をめくっていただきたい。次は動線が書いてある。ジオアリーナで発着をするので、バスは、この青い線、反時計回りで中学校の周りをぐるりと回って、三カ所の1番、2番、3番というところに停まるということになっている。帰りも同じようにこの三カ所で乗ってスタートするというになっている。都合により、遅れてしまったといって、家の人の送迎となった場合は、この右側の方に赤い矢印うがあると思が、一番上の場所で乗り降りしていただく。そして、生徒はこの紫の線を通して、地下横断歩道を通して入ってくるということになっている。このラインを引くことを関係課と相談してやらせていただいている。次をめくっていただきたい。資料3-6になる。これも人数が増減したものである。基本的には一番下を見ると徒歩の生徒1.5km未満は144名いる。1.5kmを超える生徒が314名います。合計すると458名が新中学校の人数になる。原則は314名はバスに乗っていただきたいというのがこちらの案になる。残りは徒歩なので自転車为原则、今のところは禁止となっている。どうしてもという特別な場合は別途申請書というか話を聞くことにしたいと思う。部会では、定時定路線だから、時間が来たら出てしまうで

はないか。遅れたらどうするのかとか、いろいろ質問があった。それから、本当にトンネルを通るのかという意見もいただいた。そのあたりを踏まえて、きちっとしたマニュアルを作り、そして生徒の皆さんには、丁寧に説明させていただきたいと思っている。もう一度資料の3-1に戻っていただきたい。一番下にスケジュールが書いてあるかと思う。今、バスは順次、12台を買うように発注をかけている。別途、運行委託業者もお願いしているところである。業者には9台で、市直営が3台となっている。業者と最終調整をして、この時刻やルートを最終決定する。対象となる生徒の皆さんには、夏休みの終わりにアンケートを取らせていただいて、どこのバス停から乗るのかということの確認も取らせていただく。それが決定し次第、11月か12月ぐらいは地区や学校へ説明をしたいと考えている。スケジュールだと、1月末から2月にかけてバスが順次納車されてくる。したがってここら辺は雪が心配だし、先ほどの行事も立て込んでいる。事務局の案としては、体験乗車を3月末にできればいいなと考えている。これがバスについてになる。続いて、資料はないが、2番目に学校運営協議会ということについて口頭で説明させていただく。この学校運営協議会というのは、今、実は各小中学校にある。基本的にはその学校で人選している方で学校のいろんなことについて話し合うということで、結局、新中学校になって決めていただきたい。しかし、市内一円、一つの中学校になるので、こういう方を学校運営協議会の一員として推薦してはどうかという方がおられれば、教えてくださいということで、今、PTA部会にはお願いしている。説明は以上になる。

委員長 ・PTA部会の内容について、基本的にはスクールバスのところが主体になってこようかと思う。これについては、これまで何度も説明させていただいている中で、今回、特に人数、今度の新しい新1年生を迎えての全勝山中学校の生徒さんの数に照らし合わせた人数表を今回提示いただいている。それ以外には特に大きく変動されているところはないということであろうか。これにつきましては皆さんも何回かご覧になられたことと思うが、改めて何か質問とかがあったら受けたと思うが、いかがか。

委員1 ・先日、PTA部会の方でこの話を聞かせていただいたが、小学校の方でも会長とかと話したことがあって、朝の乗車は一般の方も乗車する、高校生も乗車するという記載がある。平泉寺を例に出して申し訳ないが、平泉寺のバスは24人乗る方向になっているが、乗車の定員が28人である。4人しか余剰がないのだが、高校生が始業時間に乗るということは、高校生も乗る人が多いのではないかという話があって、始業時間に合わせていくということになると、兄弟がいたらなおさら一緒に乗っていったらどうだという話になると思う。そういう話も実際にあったし、そうなった時にどうやって子ども達を取り残さずに行くのかとか、高校生があらかじめ乗る人数を割り当ててこういう話になっているのかというのが分からない。それで最初乗れました、平泉寺の場合は最後の方で乗る人が多いので、その時になって乗れなかった場合の対応とか、そういうことを心配している。そのあたりの意見を伺いたいのと、そうなった場合の対応をぜひ教えていた

だきたい。

事務局 ・部会でもそういう意見もいろいろあったかと思う。現在、コミュニティバスというのが走っている。その実態を踏まえて人数を割っている。高校生もたくさん乗るのではないかということだが、現在も高校生がたくさん乗っているかという、そんなわけでもない。だから、その実態を見て、一応数字は割り振っているというのが一つになる。今言われるように、もしたくさん乗ってきて乗れなかったらどうするのかということだが、それはこの間も申し上げた通り、継続便というか、市の公用車が後ろをついて行かないといけないのではないかと考えている。だから一方ではたくさん乗ってほしいが、逆に何にも乗らないというのも困ってしまう。バスは3種類なので、そこに44人乗りというの、平泉寺は特に四駆が必要ということで、今の状況等も考えて、この28人乗りを当てている。

委員2 ・コミュニティバスの運営状況を踏まえてというのは、この前の部会に出席させていただいて分かったが、おそらく保護者の意見としては、高校生にとっては便利なスクールバスになると思う。その点を踏まえて、また検討していただきたいというのがあって、今、質問をさせていただいた。そこを踏まえて、対応していただきたいというのがあって、乗れなかったというの、高校生が乗るという意味がある人を、事前にアンケートを取ったりとか、そういうことをしたりというのもあると思うので、そこら辺も踏まえて対応をお願いしたい。

委員長 ・いかがか。

事務局 ・実は以前高校生を対象にアンケートも取った。ところがその時には、ほとんど乗りませんみたいな感じだった。ただ、言われるように、今度はもしかすると乗るかもしれない。でも帰りは高校生は乗れない。やはり1回動いてみないと分からない部分もある。したがって、まずは走らせていただいて、やはりここはたくさん乗ってくるよというようなことになれば、市の公用車も走らせながら、もっと少ないところとチェンジするとか、いろいろ考えないといけないと思っている。

委員長 ・現実的に来年度からの高校生の人数を把握されているのか。平泉寺からの高校生の数。それもわからない、何とも言えない。今の現状しか。

事務局 ・補足だが、先ほど言ったように、平泉寺の場合は、特殊な事情と言うか、非常に勾配がきつくて、雪も多いもので、4WDでないと走れないということがある。今現行のバス車両で4WDの機能がついているのが28人乗り。44人乗りの大型では、4WDがないので、人数を鑑みながら、そういう車両を導入したということは、覚えておいていただきたいと思う。最大公約数ではないが、マックスで今やってしまうと、後でだんだんやはり子どもの数も減少しているので、その大きい車を全部の路線で走らせるということが効率的なのかということも、その1、2年はいいが、5年、10年とバス車両は15年ほど使うので、そういったことも考えて、市の方でも協議した。実際、送迎していく保護者も結構おられる。特に近くで働いている方

は、朝ちょうどいい時間だと、多分送迎もあるだろうなというのも鑑みて、私どもとしては、特に中学生は100%乗っていただきたいが、そういった情報と今までの状況をみて、こういう車両の設定にさせていただいたので、4月からは今言ったように走らせて、そういう状況が出てくるようだったら、逆に嬉しい悲鳴と言うのではないが、ありがたい話なので、いろいろ考えていかなければならないと思う。最初はどうか、この形でやらせていただきたいと思うので、ご協力をよろしくお願ひしたい。

委員長 ・今のでよろしいか。先ほど話が あったように、下に中学生の子がいて、上に勝高生がいた時に、親御さんは高校生だけを車で送るかという話が出てくる可能性がある。その時に高校生も中学生と一緒にバスに乗るというケースも、当然考慮する必要があると思うので、確かに実際に運用してみないと分からない部分はあろうかと思うが、一応事前にある程度、そういう想定をした上で、どういう対応の必要があるかというところまで、ある程度組み入れておいていただいた方が、今の質問には答えることができるかなと思う。多分これ、平泉寺小学校に帰って報告すると、なぜこれでオッケーにしてきたのかと言われそうな話もあるかもしれないので、その辺のところを汲み取っていただいて、十分検討いただくようお願いする。

事務局 ・大矢谷**方面**の方が多分2名通っておられるので、その子たちは乗るだろうなというのは私の中でも思っている。実際、バスを使っている子ども達はバスに慣れているので、そこら辺は心配をしていないが、新しく乗るべき子たちがバスを選択してくれるのか、やはり保護者送迎を頼んでしまうのかというのもある。また高校生にアンケートを取ったのも前のことなので、そこら辺も鑑みて、いろんなアンケートを取りつつ、保護者の皆様も近くのバス停がどこにあるのかというの、家庭で一緒に考えていただけると、それも一つの学習かなと思うので、そういったことを考えながら意見をいただけたらと思う。どうかよろしくお願ひする。

委員長 ・それともう一点、やはり中学校時代にスクールバスに乗り慣れていて、そのまま勝高に上がった時に、勝高生は多分そのバスを利用する比率が極めて高いと思う。そうなってくると、中高生が乗る確率が非常に高くなってくる可能性があるので、そういったところも含めて、対応策は事前に検討いただければと思う。

事務局 ・私どももやはり三年後から四年、五年後ぐらいが一番このバスの利用がピークになるのではないのかというのは思っている。中学校で乗り慣れて、勝高に進学した子どもが、勝高行くので乗りますということが出てくる。その時に高校生プラス中学生で一番ピークがそこら辺に来るかなと思っ
ているので、一年目の状況を鑑みながら、少し車両の移動とかを考えてみたいと思うので、よろしくお願ひしたい。

委員長 ・よろしくお願ひする。

- 委員 3 ・追加で少し疑問に思ったが、多分今の利用状況を鑑みて、ある程度数を設定していただいたと思うが、これも多分ならした数字で、一般の方も乗れるということになっている。上まわる可能性があった時に一般の方と学生さんの優先、あと1人しか乗れませんとなった時にどちらを優先にするかというルールはなかなか決めは難しいと思うが、例えばスクールバスとしての性質が高いのでご協力お願いしますみたいな事前の周知とかというのが場合によって必要になるのではないかと思った。その辺はどうか。
- 事務局 ・まず今回のバス車両については国の方の補助金をいただいている。基本的にはスクールバスとして購入させていただいている。スクールバスを運行する中で市民の方もいわゆる混乗というが、相乗りしてもいいよという許可を得て運行する予定なので、基本的には、私どもの考えとしても、やはりスクールバス、中学生が大元だと考えている。その中で、空き席ができるなら、やはり一人でも乗っていただいた方がいいかなということで、混乗の申請を出す。実際は朝の便で、移動される方は、高齢者の方で、勝山病院、今の社会保険病院へ行く方がほとんどである。ただ、それも各路線で1人、2人いるかいないかが現状で、その高校生との混乗というのが少し心配だが、一般の方が混乗することによってあふれるということは想定していない。
- 委員長 ・よろしいか。小学校のPTA会長さん、何か今のスクールバスの件で質問はよろしいか。
- 委員 4 ・前回の部会でも質問させていただいたが、家からジオアリーナまでの距離が最短距離のトンネルを通るという計算で、通るルートによっては1.5kmを超える子というのは何人か現状出るという話をさせてもらったと思うが、前回、家からの距離ではなくて、その地区の一番遠いところの家から測って何キロという答えがあったと思う。この記載はなかったみたいだが、そこは変わったのか、もしくはその微妙な1.4km前後ぐらいの子は申請すれば乗れるようにする制度を考えているのか、その辺を教えてください。
- 事務局 ・何もこの間から話は変わっているわけではなく、あくまでもその地区で一番遠い子、その子が1.5kmを超えていれば、その地区の子はみんな対象になる。だから。その地区で一番近い子が1.5kmなくてもそれは対象になっている。一応地区で考えているが、ここまで明記はしていない。でも、そういったことも丁寧に説明しないといけないということで、先ほど言わせていただいた。
- 委員 5 ・例えば、その地区の一番遠い子が中学校3年生を卒業した。で、次に上がってくる子は近い。誰々さんは今まで乗っていたのに、私乗れないんだ。ある程度、乗車人数に余裕を持たせていると聞いていたので、ある程度の距離だったら申請すれば乗れるという柔軟性はあった方がいいと思う。

- 事務局 ・一年経って状況を見てからになると思う。だから今は人数に余裕があるから乗っていいですよとか、そういうことも曖昧には言えないので、それは一年経ってから考えたいと思う。
- 委員長 ・多分今のだと、去年までは乗れていたけど、今年からは乗ってはダメよという形になるわけになる。果たしてそれが通用するのか。
- 事務局 ・去年まで乗っていたのに、なんで今年は乗れないんだ、そういうことになるので、その辺もよく見ながらになると思う。
- 事務局 ・基本的には乗車人数を計算しているので、次の年はダメということはないかと思っている。ただ、街中で乗られる場合に混線と言うか、二本、三本入ってくるバスがあるので、去年までは、この路線に乗っていただいていたが、今年はすいませんが、こちらの路線に乗ってくださいと街中の生徒には、そういったお願いをすることはあるかと思う。
- 委員長 ・よろしいか。はい、他に何かあるか。まだあと設備の方があるので、今出たいろいろな意見等を踏まえて、今後もう少し検討いただいて進めていただければと思う。特に他にはないか。一応、PTA部会からの報告については以上で終わらせていただく。

④施設整備部会について

- 委員長 ・それでは最後に、施設整備部会の方より報告をお願いします。
- 事務局 ・施設整備部会になる。私の方からは、まず工事の進捗状況を説明する。13ページの資料4-1をご覧ください。まずは校舎の建設現場の状況になる。左上①だが、こちらの写真は国道から校舎を見た状況である。左側から四角いコンクリートの構造物が見えるが、これは地下横断歩道が出てきている状況である。その先は、これから屋根付きの廊下を作る予定で、ちょうど真ん中ほどになるが、黄色と白のクレーンの下が、ちょうど平屋建ての給食室棟が7月に入って、鉄骨造で棟上げと言うか、建ち上げをした。そういった状況である。そしてその右側に②は、校舎の鉄筋コンクリート工事になる。2階の状況なので、これらは工区を東西に長いので、7工区ぐらいに分けて、順次2階、3階という形で、鉄筋コンクリートの壁、梁、柱等を作っている状況になる。そして、その左下の③だが、こちらの方は校舎の北側の面になる。こちらが主に西側から徒歩で通学する生徒が通る、屋根のある部分の1階の通路である。型枠とか、支保工と言われる型枠を受ける金物があるが、その状況である。その右側が④として、左側が今、勝高のリノベーションをしている状況と、右側が中学校の校舎の施工している真ん中のエリア、交流の広場と呼ばれているそういったエリアの状況である。続いて14ページをご覧ください。こちらの方は地下横断歩道の建設の施工状況である。左上、先ほど申し上げたコンクリートのボックスカルバートの据え付けも終わって、そちらの方が出ている状況である。その右側が、ボックスカルバートが据え付けられた中の断面の状況である。成人男性2人が持っているのが、箱ジャグと言われるメジャーと

いうか、スタッフと言うが、それは5mなので、幅が6mで高さが3mということで、圧迫感のない空間でのボックスカルバートとなっている。そして左下だが、こちらの方はジオアリーナの方に地下横断歩道が上がってくる。現場打ちといって、コンクリートを流して施工している状況で、こちらの方の工事も順次進んでいる。その右側、④になる。これが今、足場と型枠とでコンクリートを打設した状況である。その先がまた階段が上がってくる形で、ジオアリーナの部分で出てくる状況の施工を順次行なっている状況である。

事務局 ・次に資料の4-3をご覧ください。地下横断歩道の一部を利用して、デジタルサイネージを設置することを考えている。これを、部会の方で出した時も、パース的におかしいのではないかという意見もいただいたが、確かに生徒の身長とかに対して、通路の幅はもっと狭いのではないかというところもあるが、ここはあくまでもイメージとして捉えていただければと思う。今、想定しているのは、通路の左右に150インチくらいのスクリーンに対してプロジェクターを投影するようなことを考えている。左右4画面を映していただきたい12mの区間が、情報発信の場所として使えたらと思っている。使い方としては、日常的なアナウンスというところもあるが、やはり生徒の方が作成したような、デジタル的なものも含まれるかもしれないが、ギャラリー、あるいは写真とかというところの発表の場ということとしても活用いただければと思っている。地下横断歩道をできるだけ明るく使っていただければということで、このようなものを今想定している。また、いろいろ市としても様々なコンテンツというのを用意していかなければいけないとも思っているのも、そういったことでも、今後いろいろ協力していただける方を探しながら、やっていきたいと思っている。こちらについての説明は以上である。ございます。

事務局 ・続いて、資料の4-4をご覧ください。備品の話になる。大きく分けると、新中学校の校舎関係、それから特別教室棟と言って、これは県の方がリノベーション工事をしていただいている。中高共に使う部屋、専用の部屋もある。そして給食室棟と3つある。順次、今いろんなものを発注したり、業務委託したりということを進めているところである。2のスケジュールの④になる。先ほども話があったが、明日、北部中学校の図書の本を中部中学校に集める。27日月曜日は南部中学校の図書の本を中部中学校に集める。これは精査していただいた後で、半分ぐらいに絞っていただいて、それを中部中に一堂に集める。そして、勝山市立図書館の力をお借りして、システムに登録していただく。勝山高校の本も登録していただいて、中高生が両方の本を借りられるようにしていくというところである。一番下の備品関係スケジュールを見ていただくと、特別教室棟は早く完成する。したがって、11月、12月のところだが、先に特別教室棟の備品関係の移動が先にある。そして、新中学校の校舎が完成する3月を中心に、残りの中学校部分の備品移動が行われるということになっている。続いて、資料はないが、レジュメには学校の歴史等の継承と書いてあると思うが、口頭で説明させていただく。三中学校にはとても歴史的なものがたく

さんある。しかし、それは専門の方に見ていただかないと、勝手に捨てることはできない。それで、先ほど言った図書の本の移動の日に、専門家の人も一緒に回っていただいて、これはというものにマーキングをしていたくことになっている。そして後日、継承の作業がかなり時間がかかるそうなので、別途対応していただくということになっている。説明は以上になる。

委員長 ・施設部会の方からの説明があったが、何か補足があるか。よろしいか。では何かこれについて質問等、状況等の確認を含めて何かあったら聞きたいと思うが、いかがか。これはトンネルの中のデジタルサイネージという表記をしてあるが、実際プロジェクターで照射する形なのか。実際に出すのではなくて。こんなに綺麗にスーッと出るのか。

委員 1 ・プロジェクターの性能と、背景の色になる。今コンクリートの下地が上下に見えているが、コンクリートに照射すると、やはりちょっとくすんだ形になる。そこで、照射されるところに白い塗装をすることで、綺麗に表示することは可能だと思う。

委員長 ・計画上はそういう形なのか。

事務局 ・地下横断歩道の方も照明もできるだけ明るいものを今用意しようと思っているが、それに対してもちゃんと投射できるような能力を持つプロジェクターと、先ほど先生が言われたようにこのイメージ図では打ちっぱなしのコンクリートになっているが、実際は塗装してきれいに投射できるような設えにすることを考えている。

委員長 ・他に何か質問等ないか。

委員 2 ・この地下通路のプロジェクターでデジタルサイネージを出そうという話だが、実際のボックスカルバートの寸法から考えると、もしかすると生徒が手を伸ばせば届く高さにプロジェクターが来てしまうのではないかなという想定ができるが、そのあたりの計算はされているのか。

事務局 ・先ほどのボックスカルバートの写真を少し訂正させていただきたい。14ページの②と④の福井側、大野側が逆になる。それで内空が先ほど3mということで、実は床が10cm程度上がる。天井の方は設え的には天井材を作らないので、2.9mに塗装をして、今ほどのプロジェクターが付くので、ジャンプしてみたりとか、そういうことがあればやはり届くのかなというところがある。その辺は生徒さんたちにはなるべくさわらないようにという形で注意喚起していくしかないかなと思っている。

委員 3 ・プロジェクターはご存知だと思うが、中のランプを一定時間で交換しなくてはいけないという消耗品があったりとか、プロジェクターで写す材料、何時から何時に出すのか、どんな絵を出すのかみたいなコンテンツの入れ替えとか、そのあたりを先生がやるのか、生徒さんがやるのか、どこかの委託した業者さんがやるのか、そのあたりは想定何かあるのか。

事務局	・投射する機械については、そういったサイネージ、時間が来ると切り替わっていくようなものを入れることを検討している。素材をいくつか入れておいて、自動的に機械の方が切り替えていくようなことを考えているし、その運用についてはまだ詰めてはいないが、やはり生徒さんが発表の場として使っていただければというところもあるので、そうしたことも生徒さんでやっていただくとか、こちらからお知らせしたいことがあれば、こちらからそういったものを用意するということで、運用できないかとは思っている。
委員 4	・本当に申し訳ない。これをよく考えていただいたかもしれないが、これをつける意味はあるのかなと思う。これは学校の登下校で通る道、あとジオに行くときに通る、中学生と高校生しか使わない道に、この明るさでわざわざつける必要性はどうか、掲示板とかでもできると思うし、学校の廊下とかでもできるのかなと思うが、どういった目的というか、何のためにかわからないなと思って、お金をかける必要があるのか、届いてしまうし、それを阻止するというか、いたずら心はどうしても出てきてしまうと思う。お金かかっているなというイメージ、ここにかける必要があるのかなと考えてしまう。
事務局	・市の考えとしては、生徒たちに、ICT ではないが、勝山市でもこういったものがあるというのを感じてほしいというところもあって、整備したいと考えている。実際に都会とかに行けば、こういった通路に行くと、こういう大きなサイネージがあったり、今の福井駅でいうと、柱4面にこういったサイネージがあったりするので、勝山市でもこれだけのものはあるんだというところは見せたいなという思いもある。
委員 5	・でも子どもに対してになる。どこか一般の方が通れる場所であったり、もう少し目につくようなところであったら、これをする意味がすごくあるのではないかな。学校としてはこういうことをしているよというのをみんなに見てもらえる場所になるのかなと思う。
事務局	・こちらの考えは先ほど申した通り、子どもにそういったものを感じてほしいということである。
委員 6	・施設整備部会でもそういう話は出ていて、どういう位置づけにするかということとは話し合った。活用方法としては、今備品の話が出たが、やはり備品は結構処分していくしかないなので、そういう3中学校のメモリアルをどうしていくかという時に、ここに写真とかで定期的に提示して、こういうものがあつたんだよというものを後世に伝えていくこともできるかな。あとは中学生、高校生、勝山の中学生、高校生がどれだけやっているのかわからないが、TikTok とかで動画を自分で編集してオープンするというのは、そういう身内だけのコミュニティとして、ここが結構使えるのではないかな。例えば中学校の部活動紹介を定期的に中学生、高校生がやってみて、ここだけで盛り上がるということも、閉ざされた世界なのでできることというのはあるので、そういったところをやはり何か具体的に示すことがで

きるといいかなとは思う。

委員長 ・納得いかれたか。何か他、質問等はあるか。

委員長 ・施設に関してよろしいか。では一応これで施設部会の方の報告も終了とさせていただきます。それでは最後にこれまで各部会の報告をそれぞれしていただいたが、全般を通して何か質問、改めて全部会話を聞いた上で質問等出た方もおられるかとは思いますが、もしあったら何か聞いていただければと思う。

委員 7 ・スクールバスが着くのが 8 時 10 分という形だったと思うが、それから教室まで行くのに何分ぐらいの想定でされているのか。見てみると、登校完了が 8 時 20 分と書いてあったので、10 分で行けるのかなと思った。

事務局 ・10 分では行けるとは思う。

委員 8 ・ジオアリーナの玄関から歩いて、ゲート前で通行証を用意して、開けて、今の長い通路を行って、靴履き替えて、2 階の教室とかになると、15 分ぐらいかなと思った。

事務局 ・実際、距離や歩くスピードとかも計算して考えているが、間に合うと思っている。1 限目開始が 8 時 40 分なので、時によっては、バスも遅れることもあるが、何とか 8 時 40 分までにはギリギリ間に合うかなとも思っている。

委員 9 ・最後の方は結構慌てる感じになるということか。

事務局 ・そんなこともないと思う。

委員長 ・他何か質問等あるか。設備の方だが、雪が降った時に、地下通路の下は、あまり滑ったりしないようになっているのか。

事務局 ・内履き、外履きのそれぞれレーンがあるが、一応滑らないような形の設えで仕上げていくことでやっている。極端に凍結した氷を落としていくとかになると、多少そういったこともあるかもしれないが、滑らない設えとして、地下横断歩道とか、屋根付き通路とかも仕上げていくので、よろしく願いしたい。

委員長 ・例えば長靴とかを履いて行って、雪が下に落ちて、内履きで出てきた時に、そのところが凍っていて滑ったりとかするようなことがあると、非常に危険な感じがするので、その辺のところも多分考慮されていると思うが、よろしく願いしたい。他いかがか。おそらく今後、来年度に向けて、この準備委員会もあと一度の開催になるのか実際はわからないが、ただ、いつものように 3 月末にというわけにはいかないの、最後はある程度 12 月とか多分その辺のところまで会議の終了という形を迎えないと、4 月のスタートに間に合う準備ができないということになるかと思う。そういうことで、これからまだ 2 学期の時間において、各部会が開催される可能性もあると思うので、ぜひ忌憚ないご意見をいただきますように、よろしくお

願いたい。それでは本日、第2回目の準備委員会の方については、これで終了させていただきたいと思う。あとは事務局の方、よろしくお願いする。

事務局 ・本日は、貴重な意見をどうもありがとうございました。今後はさらに各部会で進めていきたいと思う。以上で、第2回勝山市立中学校再編準備委員会を終了する。今後も各専門部会を開催していく。関係の委員の皆様には後日案内を送付させていただくので、よろしくお願いしたい。本日はお忙しい中、大変ありがとうございました。

資料 1-1 勝山中学校校旗（案）

資料 1-2 校訓（案）

資料 2-1 令和8年度中高連携推進委員会 各部会協議概要

資料 2-2 閉校・開校に係る諸行事について（案）

資料 2-3 令和9年度中学校入学生交流会・勝山中学校説明会実施要項（案）

勝山中学校説明会（中学校1、2年生対象）実施要項（案）

資料 3-1. スクールバスについて（案）

資料 3-2. スクールバス路線図（案）

資料 3-3. スクールバス発着時刻表（案）

資料 3-4. スクールバスルートと乗車人数見込（案）

資料 3-5. スクールバス停車位置イメージ+徒歩+送迎車の動線（案）

資料 3-6. スクールバス利用人数予測（案）

資料 4-1. 新中学校校舎等建設工事について

資料 4-2. 地下横断歩道建設工事について

資料 4-3. 地下横断歩道デジタルサイネージについて（イメージ）

資料 4-4. 備品精査について（案）

資料. 令和8年度勝山市立中学校再編準備委員会（専門部会）委員名簿